

1. あいさつ

白山高等学校長

- ・野球部、その他の部への応援のお礼
- ・3年生にとって進路決定の大切な時期であり、学校に活気がある。
- ・今回の会議は、活性化協議会として開催する。中学生のニーズをどう考えるか、みなさんからのご意見を頂戴したい。

高校教育課 辻井さん

教育政策課 小瀬古さん

- ・この活性化協議会と同時に、県教委の方でこれからの県立学校の活性化を検討している。基本的な方針が決まってきたので、ご報告したい。

2. 報告事項

- ・第1回、第2回教育改革推進会議概要について【別紙1】
- ・小瀬古さんより、ご報告していただいた。

3. 協議事項

(1) 活性化計画における取組の総括的検証について

- ・白山高校では、生徒の学力差が大きいため全ての生徒が理解できるように授業内容が簡単になってしまう。個人の学力や興味・関心に応じた個別対応のできる授業を望みたい。
- ・中学の段階では、自分の将来の夢を決定して高校を選択することは難しい。入学後、様々な選択ができるカリキュラムの中で学べると良いと思う。
- ・小規模校として、地域を活性化することが役割。小学校教育では、学力をつけて中学校へ送り出すことを大切にしていた。保護者の願いと、地域の願いの2面性が本当に難しい。両方追求することの難しさがある。
子ども達がどんな風に目的意識を持てるかを追求していただきたい。今ある、学校で学べない部分を、ICTで学ぶことも良いのではないか。
- ・地域の一人として、地域を活性化する学校として存続していてももらいたいが、生徒数減少の状況を考えれば、単に地域生徒の取り合いだけになってはいけない。
- ・中学生にとっても、実際に高校を見に行ける機会はとても大切である。現在、オープンキャンパスに行っている。自分の夢に向かって、出来る方法で、進路実現を目指して欲しい。

- ・白山高校は、コンパクトなだけに身軽である。色んな力を引っ張って来ることができやすいのが魅力である。白山高校に来たら面白いと、思われる学校を目指すことができたらよいのではないか。
- ・一人ひとりのニーズに合わせて色んなやり方ができるのが白山高校ならではのよいところである。
- ・高校見学の時は、希望する1つのコースや、授業しか見られないが、様々な部分を見ることが出来ればよいと思う。
- ・津市、四日市市も大学生ボランティアを招いて活躍してもらっている。ニーズが合致すれば可能ではないか。アイデアは良いが、現実問題は色々課題が出てくるかもしれない。
- ・学校を良くすれば、明るい未来が待っているという考え自体を変える必要がある。実際、野球部が甲子園に行ったが、入学者数が増えず厳しい。一校一校が個別に努力するのではなく、学校間で連携していく必要があるのではないか。入学してからも様々な授業の受け方が出来ると、色んな高校が存続できるのではないか。
- ・他県では、4～8クラスを学校の適正規模としているが、三重県では3～8クラスとしている。さらに、3クラスを保てないところが10校ある。三重には必要数以上の高校があるということになる。通学にお金や時間がかかるなどの不公平を無くし、地域によって平等・均等に学べることを前提としていく必要がある。
- ・都市部はニーズがある。津・西・東は、3つ必要か？学校が小規模になれば、魅力が減っていくのではないか。頑張ってきたが結果が出ない。根本的な問題は定数である。地域の生徒数を見て、県が全体の方針を出す必要がある。この会議は、定数増のために置かれたが、学校の魅力が上がれば定数が増えることにはつながらなかった。白山地域に白山高校が必要な理由を挙げて頂きたい。
- ・行きたい希望を持っている子がその希望を叶えられないということは、小中高大の一本化で、何とかならないのか。夢を叶えるためのつながりはあるのか。
- ・オープンキャンパスでは一部を見るだけなので、何度か見学できる機会を持たせて頂き、違う部分も見せて頂けると判断しやすいのではないか。
- ・入学した時には、進路希望を持たずにいる生徒も、白山高校に来てそれが見つかる。地域密着ではなく、地域吸着という形が、今の白山高校の形ではないかと思っている。白山地域で学んだことを、それぞれの地域に戻って力を発揮してくれることを期待している。
- ・インターンシップは、小規模校で取り組んでいる学校が多いのか。
- ・小規模校での実施が多い。白山高校はとて多い。卒業しても学び続けることに繋がるのではないか。美杉・白山の生徒が少なくなり、他の地域から多くの生徒が来ている。小さい学校だからこそ、小回りが利く。地域での関わりを通して、人との関わりを学ぶ。白山に来て良かったと思うのは、他で学べないことが学べるからである。地域の

行事に参加するなどして、他では出来ない経験をさせてもらえる。先生方もきめ細かい指導で苦勞されている。

- ・令和4年度から保護者負担で一人1台持つことになる。BYOD、DX、デジタルトランスフォーメーションなどと言われている。時代が大きく変化していて、子ども達に課題解決能力が求められている。AIドリルなどもあり、出来る子に、出来ない子、それぞれに合ったソフトがある。白山高校の地域とつながる良さを活かしながら外ともつながれるように、高校も連携してやっていくことがいいのではないかと。ICTを1つのツールとして、多様な学びを実現できれば良いのではないかと。少しずつ、県全体で取り組んでいきたい。
- ・県のほとんどの人は、以前の形から脱却できていない。本校は学年制だが、単位制にするとか、1つの授業をリモートで授業できて単位認定していくというのは、無理だが、色んな可能性を考えていく必要がある。
- ・今まで、本当に一生懸命、地域と一体化して取り組んできて、良い学校になったが、定数増には至っていない。これまでの取組にプラスして、より魅力を増していきたい。地域と言っても、白山・美杉にとどまらない。この地域でどんな学びが必要なのか、必要数については話し合ってもらいたい。地域には様々なニーズがあり、学校規模によっても違う。生徒のニーズも多様である。DX化もキーワードである。それを踏まえた先進的な取組が必要ではないかと。
- ・今求められているものとして、学びに向う力、自分の夢を実現するための小学校から大学までのキャリア教育の構築が必要である。また、地域における学び、ニーズに応じた学びをどのように実現していくかということが大事である。
現在、情報コミュニケーション科1クラス、普通科2クラスがあるが、本校が2クラスとなったとき、どちらを減らすのか、と言う判断は難しい。地域や全体のバランスを見て、考えていってもらいたい。
- ・今年度1年間、最後の取組の1年として、しっかりやっていきたい。多様な学びを実現させていきたい。多くの皆様から、ご意見、ご助言をいただき、感謝を申し上げます。

(2) その他 特になし

4. 連絡事項

(1) 次回の日程について

後日、ご連絡させていただく。

(2) その他 特になし